

◇審 判 必 携

千葉県高体連テニス専門部 審判部

1. チェアアンパイアの任務

チェアアンパイアは、ルールの知識およびアナウンス、コール、スコアカードの記入方法などの基本テクニックを身につけ、担当する試合をコントロールする。

2. 試合前の任務

①準備

ア 服装等の確認

- ・定められた服装、テニス用ハーフパンツ、または、ジャージを着用する。シャツはズボンの中に入れる。シューズは、テニスシューズとする。
- ・熱中症予防のため、帽子を着用する。
- ・タオルは、ハンドタオルとする。
- ・装飾品類、茶髪、化粧等は厳禁とする。
- ・雨天時。主審は傘、レインコートで対応。副審（ラインアンパイア等）はレインコートで対応。

イ 審判用具等の確認

- ・審判グッズ（ボード、鉛筆、ボールペン、消しゴム、ストップウォッチ、メジャー）
- ・スコアカード（団体、個人、ラウンド、シングルス、ダブルス、試合方法等）
- ・トス用コイン

ウ 必要事項の記入（待機中に）

- ・期日、時刻（開始と終了）
- ・審判員の名前（主審、副審）

②コート状況等の確認

ア コートおよびコート周辺

練習ボール、落ち葉、ゴミなど余計な物が落ちていないか。コート上およびコート周辺にプレーを妨害する恐れのある物はないか、確認する。

イ ネット中央の高さおよびシングルスティック

ネット中央の高さは91.4cm。シングルスラインの外側からスティックの中心まで91.4cm、ネットを挟んで交差し立てる。不要の時は審判台の下に2本置く。

ウ 審判台の位置

ネットポストから約100cm離し視界を確保する。

エ ベンチ

審判台と同じ側に用意する。

オ 試合用ボール

変形や弾み方等、不良品でないか確認する。

カ スコアボード

ドロー番号を表示する。

3. プレマッチミーティング

①団体戦開始時の挨拶

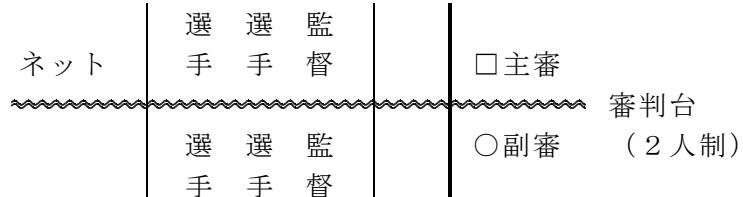
ア 整列

挨拶は、ダブルスのコートを使用し、担当審判員で実施する。原則として、ドロー番号の小さい学校が審判台から見て右側のコートに、審判台側から監督、選手（登録順）の順で整列する。

イ 挨拶（主審）

- (1) 「試合前の挨拶を行います。サービスラインに整列して下さい。」
- (2) 「ただいまより、男子（女子）団体1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝、順位決定戦） A高校とC高校の試合を行います。礼！」
- (3) 「ネットの前までお進み下さい。」
- (4) 「監督の先生は、オーダー用紙の交換をお願いします。」
- (5) 「監督の先生は、ダブルス、シングルス1、シングルス2の順に選手の紹介をお願いします。」 ※ ドロー番号の小さい学校から紹介する。
- (6) 「ありがとうございました。引き続き試合を行いますので、選手は準備をしてコートに入って下さい。」
- (7) 「これで、試合前の挨拶を終わります。礼。」

ウ 整列の仕方



②団体戦ダブルス 試合開始時の挨拶

ア 挨拶（主審）

- (1) 「只今より、男子（女子）団体戦1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝、順位決定戦） A高校とC高校 のダブルスの試合を行います。
主審は◇◇高校の△△です。よろしくお願ひします。」
- (2) 「A高校のaさんですか？ bさんですか？」
「C高校のcさんですか？ dさんですか？」
※ 選手が服装規定を守っているか確認する。選手の名前と顔が一致するようにスコアカードに特徴（ウェアの色、身長、眼鏡等）をメモする。
ドロー番号の小さい方の選手にリボンが付いているか確認する。（副審）
- (3) 「試合は1タイブレークセット（8ゲームプロセット 3セット）マッチです。」
- (4) 「それではトスを行います。ナンバー オア フラワー」
※ ドロー番号の小さい方がコインの表裏の選択権を持つ。
- (5) 「何を選びますか？」
※ トスの勝者は I. サーバーかレシーバーの選択。
II. エンドの選択（審判台から右側左側）。
III. 相手に上記I. かII. を選ばせる。
- (6) 「試合前の練習は3分間です。サービスから始めてください。」
※ 主審は審判台に上がる。副審は位置につく。練習中にボールをよく見て、目を慣れさせておく。フットフォールトの癖があるか確認する。
- (7) 「2ミニッツ」（残り2分です。）
- (8) 「1ミニット」（残り1分です。）
- (9) 残り30秒で選手紹介
「只今より、□□大会、男子（女子）団体1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝順位決定戦） ダブルス の試合を行います。この試合は、1タイブレークセット（8ゲームプロセット 3セット）マッチで行われます。
審判台から見て右側、A高校 a選手・b選手。左側、C高校 c選手・d選手です。
トスの結果、a選手 b選手のサービスです。」
- (10) 「T i m e！」（練習終了です。）
※ 20秒以内に試合開始。
選手がベンチに戻った場合は、「レツ・プレイ」

③団体戦シングルス 試合開始時の挨拶

ア 挨拶（主審）

- (1) 「只今より、男子（女子）団体戦1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝、順位決定戦） A高校とC高校のシングルスの試合を行います。
主審は◇◇高校の△△です。よろしくお願ひします。」
- (2) 「A高校のaさんですか？」
「C高校のcさんですか？」
※ 選手が服装規定を守っているか確認する。選手の名前と顔が一致するようにスコアカードに特徴（ウェアの色、身長、眼鏡等）をメモする。
ドロー番号の小さい方の選手にリボンが付いているか確認する。（副審）
- (3) 「試合は1タイブレークセット（8ゲームプロセット 3セット）マッチです。」
- (4) 「それではトスを行います。ナンバー オア フラワー」
※ ドロー番号の小さい方がコインの表裏の選択権を持つ。
- (5) 「何を選びますか？」
※ トスの勝者は I. サーバーかレシーバーの選択。
II. エンドの選択（審判台から右側左側）。
III. 相手に上記I. かII. を選ばせる。
- (6) 「試合前の練習は3分間です。サービスから始めてください。」
※ 主審は審判台に上がる。副審は位置につく。練習中にボールをよく見て、目を慣れさせておく。フットフォールトの癖があるか確認する。
- (7) 「2ミニッツ」（残り2分です。）
- (8) 「1ミニット」（残り1分です。）
- (9) 残り30秒で選手紹介
「只今より、□□大会、男子（女子）団体1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝、順位決定戦）シングルスの試合を行います。この試合は、1タイブレークセット（8ゲームプロセット 3セット）マッチで行われます。
審判台から見て右側、A高校a選手。左側、C高校c選手です。
トスの結果、a選手のサービスです。」
- (10) 「T i m e！」（練習終了です。）
※ 20秒以内に試合開始。
選手がベンチに戻った場合は、「レツ・プレイ」

④個人戦ダブルス 試合開始時の挨拶

ア 挨拶（主審）

- (1) 「只今より、男子（女子）個人戦1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝、順位決定戦） A高校a選手b選手とC高校c選手d選手のダブルスの試合を行います。
主審は◇◇高校の△△です。よろしくお願ひします。」
- (2) 「A高校のaさんですか？ bさんですか？」
「C高校のcさんですか？ dさんですか？」
※ 選手が服装規定を守っているか確認する。選手の名前と顔が一致するようにスコアカードに特徴（ウェアの色、身長、眼鏡等）をメモする。
ドロー番号の小さい方の選手にリボンが付いているか確認する。（副審）
- (3) 「試合は1タイブレークセット（8ゲームプロセット 3セット）マッチです。」
- (4) 「それではトスを行います。ナンバー オア フラワー」
※ ドロー番号の小さい方がコインの表裏の選択権を持つ。
- (5) 「何を選びますか？」
※ トスの勝者は I. サーバーかレシーバーの選択。
II. エンドの選択（審判台から右側左側）。
III. 相手に上記I. かII. を選ばせる。

- (6) 「試合前の練習は3分間です。サービスから始めてください。」
 ※ 主審は審判台に上がる。副審は位置につく。練習中にボールをよく見て、目を慣れさせておく。フットフォールトの癖があるか確認する。
- (7) 「2ミニッツ」（残り2分です。）
- (8) 「1ミニット」（残り1分です。）
- (9) 残り30秒で選手紹介
 「只今より、□□大会、男子（女子）個人1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝順位決定戦）ダブルス の試合を行います。この試合は、1タイブレークセット（8ゲームプロセット 3セット）マッチで行われます。
 審判台から見て右側、A高校 a選手・b選手。左側、C高校 c選手・d選手です。トスの結果、a選手 b選手のサービスです。」
- (10) 「T i m e！」（練習終了です。）
 ※ 20秒以内に試合開始。
 選手がベンチに戻った場合は、「レツ・プレイ」

⑤個人戦シングルス 試合開始時の挨拶

ア 挨拶（主審）

- (1) 「只今より、男子（女子）個人戦1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝、順位決定戦） A高校 a選手 と C高校 c選手 のシングルスの試合を行います。
 主審は◇◇高校の△△です。よろしくお願ひします。」
- (2) 「A高校の a さんですか？」
 「C高校の c さんですか？」
 ※ 選手が服装規定を守っているか確認する。選手の名前と顔が一致するよう、スコアカードに特徴（ウェアの色、身長、眼鏡等）をメモする。
 ドロ一番号の小さい方の選手にリボンが付いているか確認する。（副審）
- (3) 「試合は1タイブレークセット（8ゲームプロセット 3セット）マッチです。」
- (4) 「それではトスを行います。ナンバー オア フラワー」
 ※ ドロ一番号の小さい方がコインの表裏の選択権を持つ。
- (5) 「何を選びますか？」
 ※ トスの勝者は I. サーバーかレシーバーの選択。
 II. エンドの選択（審判台から右側左側）。
 III. 相手に上記 I. か II. を選ばせる。
- (6) 「試合前の練習は3分間です。サービスから始めてください。」
 ※ 主審は審判台に上がる。副審は位置につく。練習中にボールをよく見て、目を慣れさせておく。フットフォールトの癖があるか確認する。
- (7) 「2ミニッツ」（残り2分です。）
- (8) 「1ミニット」（残り1分です。）
- (9) 残り30秒で選手紹介
 「只今より、□□大会、男子（女子）個人1回戦（○回戦、準々決勝、準決勝、決勝順位決定戦） シングルス の試合を行います。この試合は、1タイブレークセット（8ゲームプロセット 3セット）マッチで行われます。
 審判台から見て右側、A高校 a選手。左側、C高校 c選手です。トスの結果、a選手のサービスです。」
- (10) 「T i m e！」（練習終了です。）
 ※ 20秒以内に試合開始。
 選手がベンチに戻った場合は、「レツ・プレイ」

4. 試合時のアナウンス

①試合開始時・・・サーバーは a

ア 団体戦

「1 タイブレーク セットマッチ A高校 a トウ サーブ プレイ！」

イ 個人戦

「1 タイブレーク セットマッチ a トウ サーブ プレイ！」

※ 3セットマッチ

「ザ ベスト オブ 3 タイブレーク セットマッチ a トウ サーブ プレイ！」

②アドバンテージ時

ア 団体戦「アドバンテージA（高校）」

※ 団体戦では、学校名（高校は省略可）

イ 個人戦「アドバンテージc」

※ 個人戦では、個人名（ダブルスでは、サーバーの名もしくはアドバンテージサイドのリターナーの名）

③ゲームを取った時

ア 1ゲーム終了後

「ゲームA ファーストゲーム C高校 c トウ サーブ」

※ アナウンスの手順は「ゲーム」 → 「取った方の名」 → 「スコア」

ゲームカウントのアナウンスは、そのゲームを取得したポイントの直後にアナウンスする。次のゲームのサービスの前ではない。

ダブルスの場合、各選手が最初のサービスゲームのサービスを打つ前に紹介する。

（試合開始から第4ゲームまで）

イ 2ゲーム終了以降

「ゲームC ワン オール」

「ゲームA Aリーズ 2-1 (ツー ワン)」

※ エンドチェンジは、90秒以内である。60秒経過で「タイム！」 75秒経過でポジションについていない場合は、「フィフティーン セカンズ」

ウ 6オール時

「ゲームC 6オール タイブレーク A高校 a トウ サーブ」

※ タイブレーク時は、最初のサーバー名のみ紹介する。

エ タイブレーク時

「1-0 (ワン ゼロ) A」「5-1 (ファイブ ワン) A」「エンドチェンジ！」

※ タイブレーク中のスコアは、最初にスコアをアナウンス（大きい数字を先に）し、次にリードしている学校（選手）をアナウンスする。

④試合終了時

ア 1セット

「ゲームセット アンド マッチA 6-4 (シックス フォー)」

イ 3セット

「ゲーム アンド ファーストセット A 7-6 (セブン シックス)」

「ゲームC Cリーズ 3-1 (スリー ワン) セカンドセット」

「ゲーム アンド セカンドセット C 6-4 (シックス フォー)」

「ワンセット オール ファイナルセット」

「ゲームセット アンド マッチA ツーセツ トウ ワン」

「7-6 4-6 6-3」

※ リタイヤの場合

「ゲームセット アンド マッチA 5-3 (ファイブ スリー リタイヤ)」

※ 勝者からサインをもらう。

5. 試合終了時の挨拶

①団体戦（全対戦終了時）

「△番コートのサービスラインに整列して下さい。」

※ 団体戦開始時と同様に整列する。

「只今の試合は、ダブルス 1－0 シングルス 1－1 計 2－1 で C 高校の勝利が決定しました。礼！」

※ 両校が歩み寄らず、握手がなされなかつた場合は

「両校、前に出て、握手をして下さい。」

②個人戦

試合終了のアナウンス後、両選手の握手を確認する。 → 勝者からスコアカードにサインをもらう。

6. 試合後の任務

①スコアボードを元に戻す。

②コートおよびコート周辺の状況を確認する。

※ 選手の忘れ物やボール缶等、余計なものがないか確認する。

7. 主審の任務と注意事項

①プレー全般について

ア サーブを打つ前には、レシーブの構えをしているか、必ず確認する。サーブのモーションからフットフォールトをチェックする。サーブが打たれた瞬間からは、ボールから目を離さずボールを目で追う。ボールから目を離して、ラインを先に見てはいけない。

イ 試合中に起こるすべての事実問題について判断する。副審（ラインアンパイア等）の判定が正しいか確認する。

必要があれば、オーバーラルルし、ポイントレットあるいは、ポイント成立を判断する。必要があれば、タイムバイオレーション、コードバイオレーションを科す。事実問題は、チェアアンパイアが最終判断する。

※ インかアウトか、妨害があったのか等。

ウ アウトオブプレーの瞬間に、失点した選手を視野に入れておく。選手から判定についての質問があれば答え、必要に応じてハンドシグナル、アイコンタクトを使う。

②コールとアナウンス

ア 主審の手順

ジャッジコール → 計時 → カウントアナウンス → スコアカード記入

イ コール

副審（ラインアンパイア等）のコールを繰り返す必要はない。ネットしたサービスフォルトのコールはしない。ダブルフォルトのコールはしない。ただし、副審（ラインアンパイ等）が「レット」「ウエイトプリーズ」のコールをかけた時は、繰り返しコールする。

③時間管理

ア ポイント間

ポイント間は 20 秒。プレーしない場合は、「レツツ プレイ！」

イ エンドチェンジ

エンドチェンジ 90 秒。60 秒経過で「タイム！」。セットブレーク 120 秒。90 秒経過で「タイム！」「タイム」のアナウンスから 15 秒経過してもポジションについていない場合「フィフティーン セカンズ」

※ タイブレークのエンドチェンジも 20 秒。ベンチに座ってはいけない。
水分補給とタオルの使用は可能である。

※ 選手からのクレーム処理後には、再度正確な判定とスコアをアナウンスし、「レツツ プレイ！」20 秒計る。

④オーバールールおよび訂正

- ア ジャッジをミスした場合は、すぐにコールの訂正を行う。
イ 副審（ラインアンパイア等）の明らかなミスジャッジに対しては直ちにオーバールールする。

※ グッドのボールをアウト（フォルト）とコールした場合
「コレクション ザ ボール ウズ グッド」
アウト（フォルト）のボールをグッドとジャッジした場合
速やかに「アウト（フォルト）」をコールする。

ウ 選手の抗議により、オーバールールしたり、判定を覆してはいけない。

⑤クレーム処理

- ア 事実問題についての最終判断者は、主審である。事実問題（アウトかインか。ノットアップかそうでないか。）に関して、選手や監督が「レフェリーを呼べ」という権限はない。

※ 事実問題に対するクレームには、毅然とした態度で臨む。
人差し指を立てて「アウトです。」
手の平を下に向けて「インです。」

- イ 法的問題（ルールに関する問題）で、選手が主審の判断に納得しない場合はレフェリーが最終判断する。（レットなのか、ポイント成立なのか等）

※ ア、イに関して、解決できない場合はR Uを呼び、対応してもらう。

⑥メディカルタイムアウト

- ア MTOが認められるのは、打撲、捻挫、擦り傷、切り傷、出血、鼻血、嘔吐、熱中症などである。

イ 筋けいれん（疲労および体力の消耗）は、ケガではないので、MTOは認められない。

- ウ MTOは3分以内で、セルフトリートメント（自分で治療する）が基本である。

※ 選手がMTOを要求した場合は、すぐにR Uを呼ぶこと。

⑦タイムバイオレーションとコードバイオレーション

- ア タイムバイオレーション

1回目 警告
「タイムバイオレーション ウオーニング a選手」

2回目以降はその度に 失点
「タイムバイオレーション ポイントペナルティー a選手」 → 「新スコア」

- イ コードバイオレーション

1回目 警告
「コードバイオレーション ボールの乱用（違反事項） ウオーニング a選手」

2回目 失点
「コードバイオレーション ラケットの乱用 ポイントペナルティー a選手」
→ 「新スコア」

3回目以降 1ゲームを失う
「コードバイオレーション 言葉による侮辱 ゲームペナルティー a選手」
→ 「新スコア」

※ ア、イに関して、違反だと確認、確信した場合は、R Uを呼び対応してもらう。

⑧ソフトウォーニング

- ア 選手に対して

「今度、落とし物をすると、ポイントを失います。」
「レシーブの時に、必要以上に動く行為は妨害行為になります。止めて下さい。」
「相手の選手に対してのガツツポーズは止めて下さい。」
「今度、暴言を吐くとコードバイオレーションになります。」

- イ 監督に対して

「応援はこちらのコートだけでお願いします。」
「インプレー中のアドバイスはおやめ下さい。」
「エンドチェンジ時以外は、立ち上がりしないで下さい。」

ウ 観客に対して

「お静かにお願いします。」

「野次、侮辱、罵声はおやめ下さい。お願ひします。」

⑨その他

ア 主審は、コート内における事実問題に関して、絶対的な決定権の所有者である。公正公平なジャッジと毅然とした態度を心がけること。

イ 突発的な事態（体調不良、天候、応援等）やクレーム対応（コード違反）で困った時は、R Uを呼ぶこと。特に、クレーム対応の場合は、その内容を整理してR Uに伝えること。

ウ 雨や雷等でのゲームの中断は、本部からの放送、またはR Uを通して指示します。選手と共にゲームスコア、ポイント、エンドを確認すること。

8. 副審（ラインアンパイア等）の任務と注意事項

①コール

ア 担当ライン

任されたラインの判定を行う。担当するラインに集中する。

イ ジャッジコール

「フォールト」、「アウト」のコールをボールが接地した直後に大きな声で行う。

「フォ！」「アウ！」のように最初の言葉にアクセントを置くのがポイントである。

※ 大きな声でプレーを止める。 → その後、ハンドシグナル。

ウ レットおよびウェイトプリーズ

レット（サービスがネットにかかる。）

ポイントレット（プレー中に、隣のコートからボールやビニール袋が飛んできた等。）

ウェイトプリーズ（ポイント間に）

※ 右手を垂直に挙げ「レット」「ウェイトプリーズ」とコールする。

②ハンドシグナル

ア アウト、フォールト

手の平を主審に向け、ボールが出た方の腕を地面と水平に真横に出す。

イ イン、グッド

手の平を下に向け、両手で指を揃えて地面と水平に主審に向けて出す。

※ サービスのグッドは毎回必ずジェスチャーする。ラリー中のきわどいボールについては、その都度ジェスチャーする。シグナルは出しっぱなしにしない。

③訂正

ア インのボール

インのボールを間違って、「フォールト」「アウト」とコールしてしまった場合は、直ちに大きな声で、右手を垂直に挙げ「コレクション」とコールし、グッドシグナルのジェスチャーをする。

イ フォールト、アウトのボール

フォールト、アウトのボールを間違って、グッドと判定してしまった場合は、直ちに大きな声で、「フォールト」「アウト」とコールおよびジェスチャーする。

ウ 主審にオーバールールされた場合は、速やかにその指示に従う。ハンドシグナルはニュートラルに戻す。

④クレーム（副審やラインアンパイアに対して）

ア 選手や監督がクレームを言ってきた場合、まずは、再度ハンドシグナルを示す。

イ それでも、解決しない場合、主審と確認の上、選手および監督に説明する。

ウ 対応に困った場合、主審はR Uを呼び、対応してもらう。

⑤その他

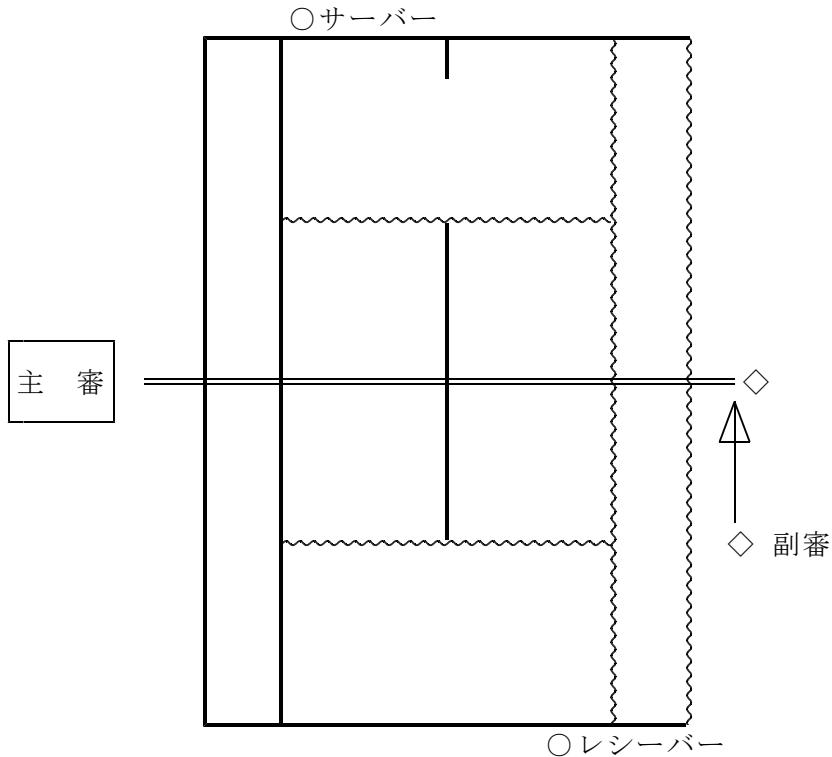
ア ジャッジに集中するため、ボールは拾わなくてよい。

イ ゲーム中断時には、速やかに試合球の回収を行う。

ウ 適宜、主審の補佐に努める。

9. 審判方法（役割、配置、判定ライン）

① 2人制審判



ア 主審の役割 判定ライン

- ・スコアのアナウンス、スコアカードの記入。
- ・フットフォルトの判定、センターサービスラインの判定。
- ・ベースラインの判定、主審側のサイドラインの判定。
- ・レット、ノットアップ、ファウルショット、タッチ等のコール。

※ 副審が「レット」「ウェイトプリーズ」とコールした場合は、そのコールを繰り返す。

- ・副審の明らかなミスジャッジに対するオーバールールの適用。
- ・20秒、90秒ルールの適用。
- ・スコアボードの管理。

イ 副審の役割 判定ライン

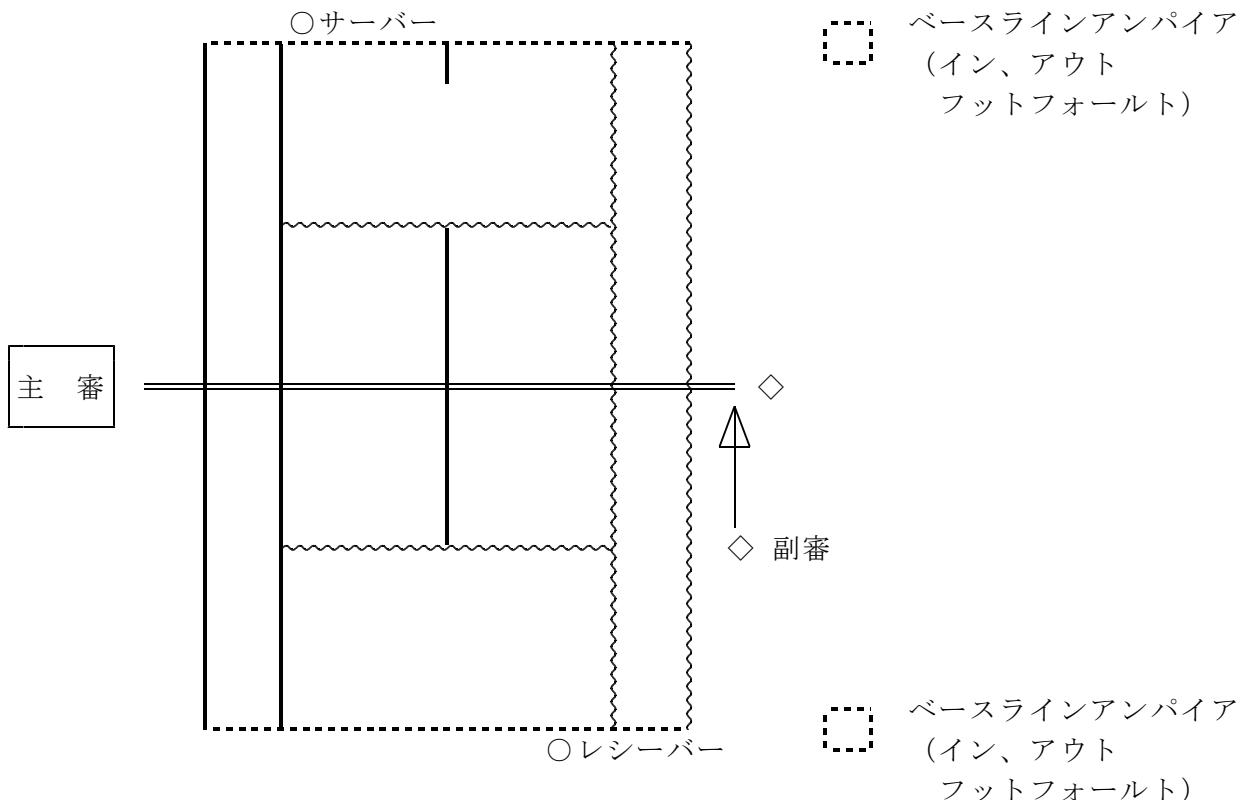
- ・サービスラインの判定。
- ・サービス判定後 → ポール横にムービング。
- ・副審側のサイドラインの判定。（ベースラインのジャッジはしないこと。）
- ・主審の補佐。（主審に見えなかったベースラインジャッジ判定）
- ・レット（サービスがネットにかかる。）およびポイントレット（隣のコートからボールやビニール袋が飛んできた等。）のコール。

※ 右手を垂直に挙げ手の平を主審に向け、「レット」「ウェイトプリーズ」とコールする。

ウ ポイントレットについて

- ・インプレー中「レット」がコールされても、次に示す状況が起こった場合は、「レット」は取り消され、ポイントが成立する。
 - ☆ レットコールの前に打たれたボールが、コート内に正しく入らなかった場合は、そのボールを打ったプレイヤーは失点し、レットコールの前に打たれたボールが、明らかにウイニングショット、エースの場合は、そのプレーヤーの得点となる。
- ※ 主審は、「レットコール」瞬間の状況をよく見極め、ポイントレットかポイント成立かを判断する。副審と協議してもよい。

② 4人制審判



ア 主審の役割 判定ライン

- ・スコアのアナウンス、スコアカードの記入。
- ・センターサービスラインの判定。
- ・主審側のサイドラインの判定。
- ・レット、ノットアップ、ファウルショット、タッチ等のコール。

※ 副審ベースラインアンパイアが「レット」「ウェイトプリーズ」とコールした場合は、そのコールを繰り返す。

- ・副審、ベースラインアンパイアの明らかなミスジャッジに対するオーバールールの適用。
- ・20秒、90秒ルールの適用。
- ・スコアボードの管理。

イ 副審の役割 判定ライン

- ・サービスラインの判定。
- ・サービス判定後 → ポール横にムービング。
- ・副審側のサイドラインの判定。(ベースラインのジャッジはしないこと。)
- ・主審の補佐。(主審に見えなかった事実判定)
- ・レット(サービスがネットにかかる。)およびポイントレット(隣のコートからボールやビニール袋が飛んできた等。)のコール。

※ 右手を垂直に挙げ手の平を主審に向け、「レット」「ウェイトプリーズ」とコールする。

ウ ベースラインアンパイア 判定ライン

- ・ベースラインの判定。フットフォールトの判定。
 - ・ポイントレット(隣のコートからボールやビニール袋が飛んできた等。)のコール。
- ※ 右手を垂直に挙げ手の平を主審に向け、「レット」「ウェイトプリーズ」とコールする。

エ ポイントレットについて

上記2人制審判 ウ ポイントレットについて を参照。

1 0 . 試合のコール

- ①アウト
- ②フォールト
ネットを越えなかった時は、コールしない。「ダブルフォールト」はコールしない。
- ③フットフォールト
サービスが打たれた瞬間にコールする。
- ④レット
アンパイアがプレーやサービスをやり直すと判断した時。
- ⑤コレクション
フォールト、アウトをグッドに訂正する時。
- ⑥ネット
サービスがネットに触れた後、レシーバー側へ越えた時。
- ⑦スルー
打球がネットを通り抜けた時。
- ⑧タッチ
ボールが身体に触れた時。
持ち物を相手コートに落とした時。
ラケットや身体がネットに触れた時。
ボールがラケットにかすった時。
- ⑨ノットアップ
2バウンド以上で返球した時。
- ⑩ファウルショット
故意に2度打ちした時。
ボールがネットを越してくる前に打った時。
- ⑪ヒンダランス
プレーヤーが「故意に相手を妨害」した時。（失点）
プレーヤーが「無意識に相手を妨害」した時（レット）
- ⑫ウエイトプリーズ
何らかの不都合が起こり、サービスを打つのを待つよう知らせる時。

1 1 . ルール

①パーマネントフィックスチュア

コートの周りにある全ての施設、設備、主審、副審、線審、ボールパーソンのことをいい、シングルス時にはシングルスティック外側のネットポストやネットもパーマネントフィックスチュアとみなされる。

- ・インプレー中のボールが地面に落ちる前に、ボールパーソンや線審がうっかりつかんだ。
→ ボールを打った者の失点になる。
- ・シングルスティックを使用してシングルスを行っているとき、ラリー中のボールがダブルス用ポストに触れて相手方のコートに入った。
→ シングルスティックの外側はパーマネントフィックスチュアであり、バウンド前にパーマネントフィックスチュアに当たった場合は失点となる。
- ・ダブルスの試合でネットポストとネットの網の間の隙間を通り抜け、相手コートに返した。
→ ネットは十分に引っ張って、2本のネットポストの間を完全に塞ぐように張る。とあるので、無効である。ただし、シングルスの場合は有効である。
- ・ボレーをしたボールがネットに当たり、ボールが跳ね上がった時、シングルスティックがネットから外れた。
→ シングルスティックが外れた瞬間にレットである。
- ・シングルスを行っているとき、シングルスティックとダブルス用ポストとの間にあるネットに、インプレー中のプレイヤーが触れた。
→ パーマネントフィックスチュアにプレイヤー自身が触れても、失点にはならない。

②ボール

- ・インプレー中にボールが破れた。
→ そのポイントをやり直す。
- ・ポイントが終わったとき、ボールが軟かくなっていた。
→ ボールが破れたのではなく、単なる軟化の場合、ポイントはやり直さない。

③ラケット、ストリング

- ・ラリー中にストリングが切れた。
→ そのポイントはそのままプレーできる。ポイント終了後ただちに正規のラケットに交換する。持っているラケットのストリングが全部切れた場合、主審、R Uを通してラケットの補充を頼むことができる。時間内にプレーできない場合はコードバイオレーション「不当なゲームの遅延」になる。
- ・ラケットのストリングに振動をおさえる器具を取り付けている。
→ よい。ただし、その位置はストリング交差模様の外側部分とする。

④サービス、サーバー

- ・サーブされたボールが地面に落ちる前に、パーマネントフィックスチュア、シングルススティック、またはネットポストに触れた。
→ フォールトである。
- ・シングルスで、サーバーがシングルスサイドラインとダブルスサイドラインの間からサービスを打った。
→ フットフォールトである。
- ・ダブルスで、サーブされたボールがサーバーのパートナーに当たった。
→ フォールトである。
- ・サーブするボールを空中にトスしたあと、サーバーが打つのを止めてボールをつかんだ。
→ フォールトではない。サーブするのを止めたサーバーは、ボールを手でつかんでも、ラケットで止めても、地面に落としても構わない。
- ・ファーストサービスの打球時に、サーバーのストリングが切れ、そのサービスがフォールトした。
→ 切れたままセカンドサービスを打っても、ラケットを交換してセカンドサービスを打ってもよい。
- ・セカンドサービスがネットにあたったはずみでシングルススティックが倒れた。
→ ポイントレットになる。ファーストサービスからやり直す。センターストラップの止め金がはずれた場合なども同じである。

⑤レシーブ、レシーバー

- ・ファーストサービスがフォルトになった時にレシーバーのストリングが切れた。
→ レシーバーはラケットを交換してもしなくても構わない。ただし、レシーバーがラケットを換えた場合は、ポイントレットとなり、ファーストサービスが与えられる。
- ・サーブされたボールが、ネット、ストラップまたはバンドに触れた後、地面に落ちる前にレシーバー、またはレシーバーのパートナーに触れた。（着衣、持ち物を含む）
→ サービスレットとなり、そのサービスをやり直す。
- ・ダブルスでサーブしたボールが、バウンドする前にレシーバー、またはレシーバーのパートナーに当たった。
→ サーバーの得点となる。
- ・レシーバーがいったん構えた後、サーバーがセカンドサービスを打つ寸前に、レシーバーが手を上げて「ノットレディ」を知らせたが、サーバーが気づかずサーブを打ってしまった。
→ ファーストサービスからやり直す。

⑥プレイヤーの失点と有効返球

- ・プレイヤーが、ネットの仮想延長線を越えて相手側に入り込んだ。
→ 相手コートに入らない限り、返球の前後に関わらず失点にはならない。
- ・ラリー中にシングルススティックにあたったあと、正しくコートに入った。
→ 有効である。（ただし、サービスの場合はフォールト。）

- ・ボールがバウンドした後、逆回転がかかって（風に戻されて）ネットを越えて相手側に戻ったので、ネット越しに正しく返球した。
→ 有効である。
- ・ネットの自分側で打った後、ボールは正しく返球されたが、自分のラケットがネットを越えて相手側に突き出た。
→ 有効である。

⑦妨害

- ・故意ではない2度打ちをした。
→ 有効である。
- ・ボールが地面にバウンドしたあと、風に押し戻されてネットを越え戻っていった。プレーヤーが追いついて打とうとしたが、相手が邪魔をした。
→ 主審は、相手の行為が故意なのか、無意識なのかを判断する。故意の場合は、相手を失点にし、無意識の場合は、ポイントをやり直す。
- ・ポイントが始まったとき、すでにコート上に転がっていたボール、または他の物体がプレー中に邪魔になった。
→ 妨害ではないので、やり直しはできない。
- ・第2サービスの前に、他のコートからボールが転がってきた。
→ 第2サービスのモーション前に、ボールが転がってきてても妨害とは判断しない。第2サービスからのやり直し。ただし、モーションに入ってからボールが転がってきた時は妨害と判断し、第1サービスからのやり直し。
- ・インプレー中、プレーヤーが帽子を落とした。
→ 落としたのがその試合で1度目ならレット。その際「今後落とし物をしたら、その度に失点になります。」と伝える。2回目以降の落とし物は、故意による妨害と判断し失点となる。
- ・第2サービスからのインプレー中、コート上にあるボールを蹴飛ばした。
→ 第1サービスのフォールトのボールを誤って蹴飛ばした場合、主審が妨害と判断した場合「レット」をコールできる。2回目以降は故意による妨害と判断し失点となる。

⑧間違いの訂正

- ・テニス規則にかかわる間違いが発見された時は、間違いに気づくまでに行われたポイントは原則としてすべて有効とし、間違いを訂正する。
- ・サーバーが誤ったサイドからサーブするのが発見された。
→ ただちに間違いを訂正し、スコアに応じた正しいサイドからサーブする。間違いが発見される前にフォールトしたサービスは成立する。
- ・スタンダードゲーム中、サーバーの順番が間違っていたことに気づいた。
→ 気づきしだい、本来のサーバーに代わる。しかし、気づいた時、すでにゲームが終了していた場合は、入れ替わったままの順番で続ける。
間違いに気づいた時、相手がすでに打っていたフォールトは取り消す。
ダブルスで、パートナー同士のサービスの順番が間違っていた場合は、間違いに気づく前に打たれていたフォールトは取り消さない。
- ・タイプレーク中にサービス順番が間違っていることに気づいた。
→ 偶数ポイント終了時に気づけば正しい順番に戻し、奇数ポイント終了時に気づけば順番が入れ代わったままプレイを続ける。間違いに気づく前に打たれたサービスのフォールトは取り消す。
ダブルスで、パートナー同士のサービスの順番が間違っていた場合は、間違いに気づく前に打たれていたフォールトは取り消さない。
- ・ダブルスのゲームの途中で、パートナー同士のレシーブ隊形の間違いに気づいた。
→ そのゲームだけ間違ったままでプレーを続け、次のレシーブゲームで本来の隊形に戻す。

- ・タイブレークセットでプレーすると決められていたのだが、6ゲームオールになった時、間違ってスタンダードゲームでプレーしてしまった。

→ 最初の1ポイントだけをプレーしたのであれば、直ちにタイブレークセットに戻す。
第2ポイントがインプレーになった後で気づいた場合は、そのままアドバンテージセットでプレーを続け、8ゲームオールになったらタイブレークを行う。

⑨その他（事例として）

- ・ダブルスのゲームにおいて、ロブの落ちたベースラインの判定が、プレイヤーの陰になって見えなかつた。
→ 事実問題に関して、ラインアンパイアが判定を下せず、または、ラインアンパイアがついておらず、しかも、チェアアンパイアも判定を下せなかつた場合は、ポイントのレットになる。
- ・団体戦のタイブレークのエンドチェンジ時に、コーチングをしていた。
→ コーチングは不可。20秒でプレーしなくてはならない。速やかなプレーを促す。
- ・試合中に選手が、シューズの交換を申し出きた。
→ 「汗で湿ったシューズの交換」は、1試合1回に限り、エンドチェンジ時にコート内に予備が用意されていれば履き替えに必要な時間延長が認められる。「シューズがすべる」などの理由でコートを離れることはできないが、破損した場合は、「用具の不具合」として、会場内に予備の用具がある場合に限り、理にかなつた時間内で取りに行くことができる。
- ・主審が「フォールト」と言ったが、プレイヤーは「サービスエースだ」と抗議してきた。相手プレイヤーはサービスエースを認め、次のポイントの準備をしている。
→ 主審の判定は最終であり、プレイヤーの要求によって判定を覆してはならない。ただし、相手プレイヤーが、自らの不利益を理解して、相手の獲得ポイントとして認める場合、ポイントのコンシード（Concede）として、相手プレイヤーへのポイント譲渡が認められる。
- ・シングルスでドロップショットを追いかけボールは相手コートに返球しエースとなつたが、ネットに触れてしまった。
→ 相手コートに返球されたボールが2バウンドするのと、ネットに触れたのの、どちらが早かったかで判断する。
- ・打球時に大きな声を出す選手
→ まぎらわしいが、声が相手を妨害していると主審が認めた場合は、「レット」をコールし、プレイのやり直しを命じる。特に、打球後に声を発した場合は、故意の妨害と判断してよい。また、プレイ再開の前に、プレーヤーに対して「次に同じようなことをしたら、故意に相手を妨害した。として失点になります。」と告げる。

※ 以上の内容をよく理解し、試合を上手にコントロールして下さい。緊急事態が発生したら、RUを頼って構いません。よろしくお願いします。